

吉竹弘行●

患者への啓発にとどまらず、歯科医師としての使命を考え直させられる一冊である。

日本は、高齢化社会から高齢社会へと急速に突き進み、2007年には65歳以上が総人口の21%を超える、超高齢社会に突入した。

社会がそのような変化を迎えているにもかかわらず、我々歯科医師は高齢者の方々の健康ということを含め、今まで真剣に考えていなかったように思う。本書は、今後加速度的に増加していく高齢者が、いかにすれば健康で、そして豊かな人生を歩めるか、を初めに説明し、そのためにはどれほどバランスのとれた食生活が重要であり、そして歯が大切であるか、ということを含め、分かりやすく解説している。

最近の歯科は、どちらかというところ、細分化の傾向が顕著である。再生療法ばかり、審美治療ばかり。確かに、複雑な、そして時間と費用のかかる処置を積み重ねていき、一般人には全く人工物と分からないほどの審美的でなおかつ機能的な口腔内を作りあげたように、歯科は進歩してきた。

しかし歯科医療の一番の目的は「よく噛み、バランス良く食べる」ことである。日本歯科医師会のホームページの筆頭にも、『歯科医療は皆様の「生きる力」を支える医療です』と記されている。我々歯科医師は、再度この原点に戻って、歯科医療のあるべき姿を考え直す時期に来ているのである。

さて本書であるが、まずその着眼点が素晴らしい。今まで筆者は歯科治療の後、「太ってしまった」患者を見て喜んでいた。しかし著者の林 揚春、武田孝之両氏は「なんでもよく噛めるようになった」と患者に言われ、「噛めるようになって、太ってしまったのはだめだ。噛むことが全身の健康に役立つなくてはいけない」と反省した、と記している。それを切り口に、バランスの良い食生活とはどのようなものかを解説し、さらに死に至る生活習慣病のおそろしさと、それを予防するための「歯」、そして「噛む」ことの重要性を非常に多くのデータに基づいて説明している。



歯の欠損から始まる病気のドミノ
—命の質と量を守るためのインプラント治療—
武田孝之・林 揚春 著
A4判変型 40頁 定価2,940円(本体2,800円+税5%)
医歯薬出版株式会社刊

今まで大多数の歯科医師は、インプラントの長所の一つとして「なんでも食べられる」という項目は説明しても、上記のような説明を患者にはほとんどしていなかったのではなかろうか？

インプラント治療の真の目的は、本書の表紙に書かれている「命の質と量を守るためのインプラント治療」でなければならないと、私自身学ぶことができたと思っている。

『生活習慣を改善することの重要な第一歩として、よく噛んで、美味しく、楽しい食事をするのが重要なのです。「食」という字は「人」を「良く」と書きます。生物としての人間が食べることは生きることなのです』という本文中の言葉が、著者両氏の患者に対する思いを表しているように感じる。

本書は医院の待合室において患者に読んでいただくのはもちろんのことであるが、我々歯科医師、特に50歳以降の歯科医師自身が熟読し、高齢の患者が今後著しく増加していく超高齢社会において、これからの歯科医師としての使命や生き方、また歯科医院の方向性をしっかりと考えるための一冊としていただきたい。

(よしたけひろゆき 〒660-0893 兵庫県尼崎市西難波町1-3-5 吉竹歯科医院 Tel: 06-6416-6488)